

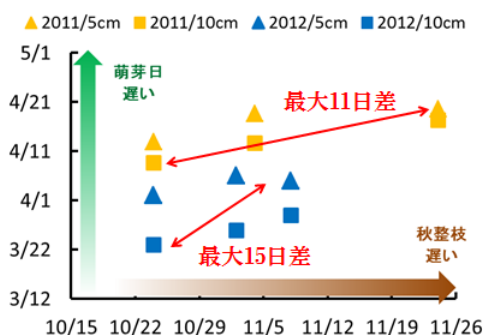
茶の京都府育成品種「鳳春」「展茗」 に適した秋整枝方法の決定 (農林センター)

府育成品種「鳳春」「展茗」について、秋整枝後の再萌芽率、翌年一番茶での萌芽日等の視点から、それぞれ両品種に適した秋整枝方法（時期、高さ）を解明

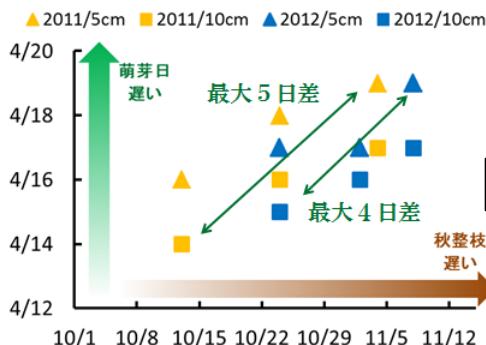
※秋整枝方法の表記(10月下旬+5cm)は、10月下旬に夏整枝面から5cm高い位置で整枝することを示す

ポイント① 萌芽日 秋整枝方法により、**鳳春で15日間、展茗で5日間の差が生じた。**

秋整枝条件と萌芽日の関係（鳳春）



秋整枝条件と萌芽日の関係（展茗）



▲低めの整枝(+5cm)



■高めの整枝(+10cm)

ポイント② 再萌芽率 (%)

整枝日		10月13日	10月24日	11月4日	11月24日
平均気温(℃)		18.2	19.0	13.3	7.5
鳳春	+5cm(低め)	—	14.9	1.5	3.1
	+10cm(高め)	—	14.8	24.7	12.6
展茗	+5cm(低め)	33.6	3.0	7.6	—
	+10cm(高め)	34.6	20.1	19.2	—

鳳春 低めの整枝で再萌芽率20%以下

展茗
てん茶栽培で慣行技術として行われる高めの整枝で、慣行時期(10月下旬)では再萌芽率20%以上

※秋整枝後、冬になる前に再び萌芽することを「再萌芽」と言います。
この再萌芽率が20%以上になると翌年一番茶の収量等に悪影響が出ます。

- ・鳳春①秋の早い時期に高めの整枝を行うと、晩秋に低めの整枝を行うより、春の萌芽日が顕著に早期化
- ②極早生品種だが、10月下旬の低めの整枝でも低い再萌芽率
- ・展茗①秋整枝方法が萌芽日に影響を与えるが、最大5日と限定的
- ②高めの整枝は、11月上旬まで高い再萌芽率

- ・鳳春は、10月下旬の整枝により、再萌芽を防ぎ、翌年の春の萌芽が早くなり、早期出荷が可能になります。
- ・展茗は、11月上旬までの整枝で、てん茶栽培で行われる高い秋整枝(+10cm)における再萌芽が20%前後と高くなる可能性があります。